第２回敷島エリアグランドデザイン有識者意見交換会　議事要旨

日時：令和３年３月24日（水）14時00分
場所：群馬県庁29階　第１特別会議室

１．開会

２．あいさつ

３．意見交換
（１）敷島エリアのコンセプト・将来像素案について
事務局　：事務局から別添資料をもとに、敷島エリアのコンセプト・将来像素案について説明。

委員Ａ　：敷島公園は、様々な来園者が思い思いに使い方をデザインしているが、個々の居場所や休める場所がもう少しあるといいと感じている。
　提案されたコンセプトについて、「新しいライフスタイルをデザイン」とまとめられているが、公園が（来園者のライフスタイルを）デザインする、というふうに捉えられてしまう恐れがある。「公園が人をデザインしていく」のではなく、「新しいライフスタイルが公園をデザインしていく」「ITも含め諸々の先端技術を人が主役として活用することによって公園がデザインされていく」というコンセプトの方が適しているのではないか。
　地域公共交通計画の会議にも参加しているが、公共交通との連携が図れているのか確認したい。
　スーパーシティ検討の中でも敷島エリアについて議論が進んでおり、ウェルネス、Well-beingというキーワードで進めているので、そういったところも連携しながらまとめていって欲しい。

事務局　：地域公共交通計画については、交通まちづくり戦略を改定することとしており、交通政策課と都市計画課が連携して進めることとなっている。全体の中で調整しながら進めるため、敷島エリア限定で、また、まちなかと敷島エリアという位置づけでどこまで具体的に明確にできるかどうかも含め、今後調整をしながら進めていきたいと考えている。

委員Ｂ　：商工会議所の組織ビジョンと中期行動指針として、今後の５年間をチャレンジし、承継する商工会議所を目指し、変えるべきもの、新しいことに積極果敢にチャレンジしていく、また、大事な経験とか文化は引き続き受け継いで守っていこう、ということをビジョン、理念にして作っている。
　これは、経営支援、産業振興、まちづくりと大きくこの３つを中心にやっており、まちづくりについては地域を作る、まちの価値を高め、Well beingなまちづくりを推進するということを基本としており、説明された資料と近いものを感じている。
　Well beingという心身ともに健全で幸福度の高いまちづくり、そこに住みやすい、リバ

ブルウエルビーイングの発想のまちづくりを目指すということが前橋市を含めて群馬県にはふさわしいのではないか、そのためにもローカルファーストなまちづくりをして、その地域の特徴を生かしたまちの価値を高めていく考え方に似ている。

委員Ｃ　：50 年後ということで、情報過多な時代の中で自然の力を使ってリラックスしたり、自分の内面に向き合うという時間の価値はどんどん上がっていくと思っている。その中で、自然の価値があるというのはすごく大事なことであり、本多静六の自然を生かした思想をベースにするというのは良い考え方だと思う。また、「つかう」「みせる」「はぐくむ」という 3 つに分けているというところもいいと思う。

ライフスタイルをデザインするという考え方自体はいいと思うが、市民が自発的にというところで言葉を作ったほうがいいということはそのとおりだと思う。前橋は「めぶく」というキーワードが既にあるので、例えば、ライフスタイルが芽吹いていくというような、表現の仕方をしてもいいのではないか、と思う。

2 拠点居住というのはフラットではないと感じており、どちらかメインで、どちらかサブという形になっていくと思う。それで言うと、前橋がメインのほうにするときに大事なのは、全体的なライフの充実として、特に子どもが遊べる場所とか教育環境ということがすごく重要な要素になっていくのだろうな、と思う。敷島に関しても子どもの教育というところをより強く打ち出していくというところが結構大事かなと思う。

それに加え、公園が持っているハブ機能として、2 拠点を始めるときに、その地域に知り合いや友達がいるということが大事な要素だと思う。地域との交流を持つという意味で、自然やアクティビティをハブにして人と接していけるようなプログラムや環境を敷島に作ることが、前橋市全体としても重要な機能になるのではないか。

委員Ｄ　：資料は充実しており密度の高い内容になっているが、課題がみえない。今後、計画をたて、具体化していくにあたっては、いろいろな要素を盛り込むだけではなく、敷島公園をめぐる課題は何なのか、総体として何を目指すのか、優先順位がはっきりしていないと難しいのではないか。

例えば敷島公園の足元の課題として、ある場所には非常に木が少なくて木陰がないので、夏場は寄りつきがたく、広い空間があるが行ってみたら誰もいなかったとか、小さな子どもや年配の利用者だと駐車場からのアクセスに行動が制限されてしまうとか、照明器具が少ないので夜間は非常に危ない、などの即物的な課題が挙げられるが、こうした直近の課題だけではなく、広い視野からみた課題の把握と計画が必要。

前橋市全体からみた課題としては、1 つめに公共交通網が脆弱で自家用車が移動手段のメインであり、高齢者など車を運転しない人は敷島公園を利用しづらいという問題があげられる。2 つめに、今後 50 年ぐらいで人口が半減する予想を踏まえ、社会増減をコントロールして人口減を何とか緩和していくため、他県や他市からの人口流入促進を目指して、敷島公園をどう活用していくのか、という事も考える必要がある。3 つめに、中心市街地の空洞化と言う視点から、敷島公園という中心市街地の沿革にある場所に住まいを誘導していくのか、それともまちなかに誘導していくのか、それによっても敷島公園のあり方、アクセス網の考え方が変わってくる。

同様に群馬全体の課題、あるいは首都圏からみた課題から敷島公園のあり方を考える必要があるのではないか。

非常に色々なことが絡み合っているため、やらなければいけないこと、やれる可能性があることというのはたくさん出てくるが、全部同じテーブルに同じように乗せるのではなく、重視する課題とその解消のための敷島公園のあり方という 1 つの骨を決め、ある方向性に向けて収斂させた上で、コンテンツの優先順位とか、実行していく時間軸やプロセスを組み立てていく必要があるではないか。

事務局　：公園の課題については、利用者アンケート等から、子どもの遊び場が少ない、照明等の機能が少ないなどの把握をしている。また、前橋市全体の課題として、交通の面、あるいは中心市街地の空洞化の面等々、頂いたご意見を改めて少し整理をしたい。

グランドデザインの今後の作業として、デザインガイドを策定し、その後、民間活力、市民参加のあり方などの素案を検討していくこととなっている。そうした具体的な検討の中で、今回まとめたコンセプトと将来像をもとに、現在把握している課題と共に、ご指摘いただいた課題を掘り下げ、今後の具体的な検討に反映したい。

委員Ｅ　：50 年後という具体的なマイルストーンが大きな意味を持っている。50 年前、大阪万博でみた未来が現在の生活の中で実現している。これからの 50 年は、これまで以上に変化のスピードは加速していく。ムーアの法則が壊れているともいわれている。

未来のまちはどのようになっていくのだろうというのをスーパーシティとは少し違う視点で整理をし、仮に敷島を中心にしたライフスタイルがあるとして、それを敷島スタイルというふうに名づけたときにどういう価値の循環があるのかというのをフローにしてみた。

いわゆる敷島を心豊か、健やかに生きていく 1 つのプラットホームとして考えたときに、敷島のみならず、敷島周辺で多くの人が生活していると考えると、前橋の市街地、赤城、榛名というエリア、利根川のエリア、これらと結節した状態の中にすべての敷島のエリアのファシリティというものは結節して存在している。

また、運動公園のハードウエアの稼働率がどのくらいになっているのかも、読み切れない未来がある中で、敷島エリアというのはどういう役割を果たす施設であるべきなのかというところはぜひみんなで言語化しておくべきではないか。

これからは、自律的に発展し、いかに交流人口を増やしていくか、そして関係人口へといかに昇華させるのかが重要となる。1 つのスタイルとして世界に通用するようなライフスタイルを持った非常に自律発展型のサスティナビリティ性の高い地域となっていくために、いかにサーキュラーとして地域循環がどのように生まれ、関係人口から定住人口のほうへ人々の意識が移っていくマグネットになり得るかというところを理念とかビジョンの中に入れていったほうがいいのではないか。

50 年後、変わらないものは何かと考えたとき、老いとか、命とか、それから何を求めてここに住んでいるのかということも含めた自分の well を落とし込んだ施設生態系を設計できるとポジティブな敷島エリアになるのではないかと感じている。

委員Ｂ　：広域避難者の避難先に、群馬大学と連携した災害拠点という話を追加意見で出させていただいた。群馬大学の防災の専門家と、東京からの避難先に群馬県の河畔エリアを活用できるのではないかと話をしたことがある。整備費用について東京に負担してもらうことも選択肢の一つ。防災拠点としてはアクセスが悪く、整備が必要になる。

　東京一極集中のリスクと人口減少の課題への対応を解決できるエリアとなるとアピールもできるのではないか。群馬は人口減に対応できるエリアで、今後は少しでも人口を増やしたいし、住む側にとっても、東京から 100 ㎞圏内でこんなに住みやすい場所はない。

事務局　：現在の敷島公園は、利根川の増水時には 50 ㎝ほど浸水するため水害時の災害拠点としては難しいが、その他の地震時などの災害には、スタンドの上などに高い場所に資材を確保しておき、一時的な避難場所としては良いのでは。

４．その他

５．閉会

以上